

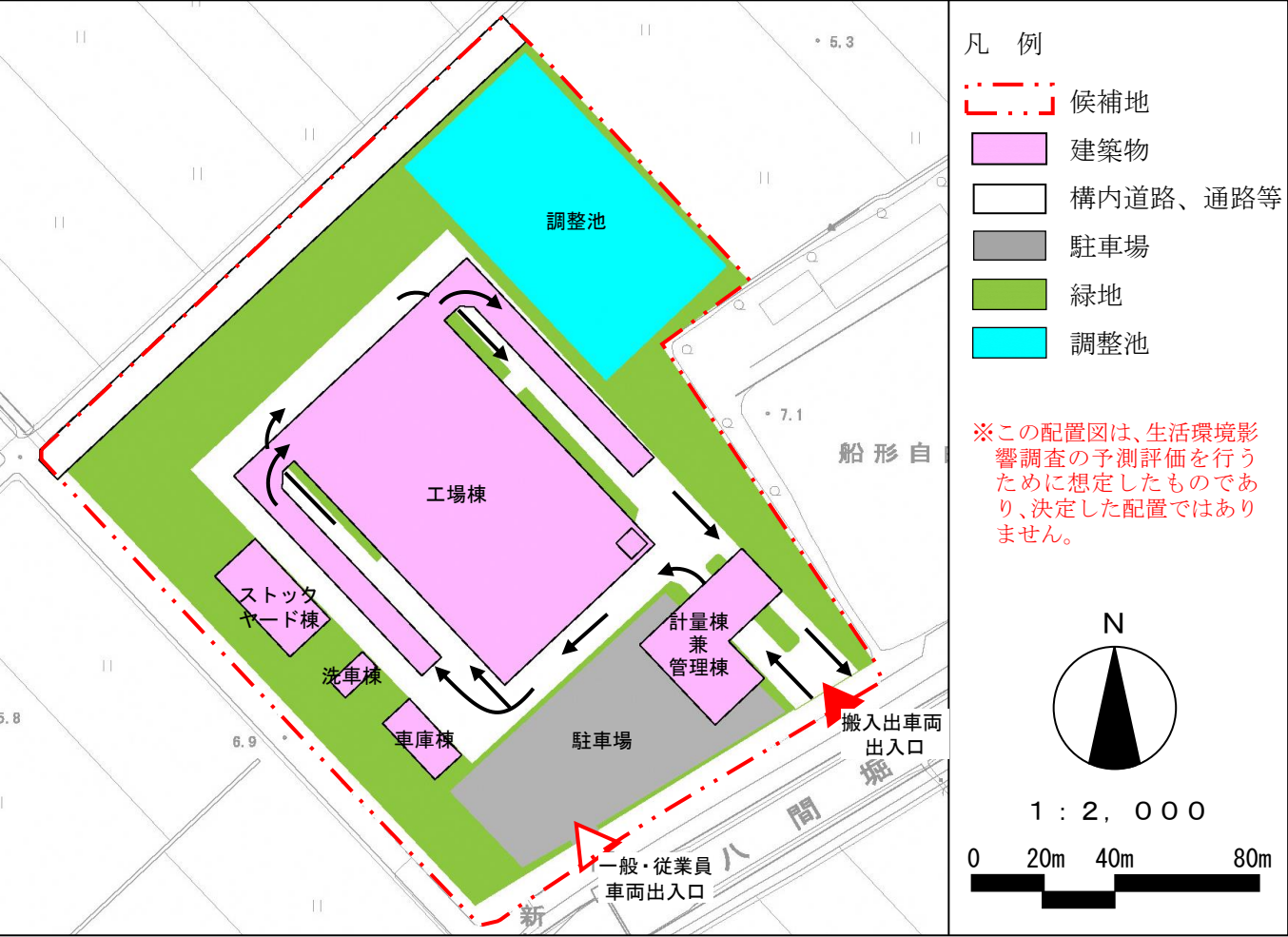
野田市新清掃工場建設計画に係る生活環境影響調査予測評価結果の概要

資料 39－3－2

新清掃工場の概要

項 目	概 要
候補地（面積）	千葉県野田市船形 5161 番地 他（約 3ha）
処理能力	95 t / 日
処理方式	ストーカ式焼却方式
稼働時間	24 時間連続運転
煙突高さ	59m

配置図



工事工程

工事項目		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
実施設計						
建設工事	準備・仮設工事					
	敷地造成工事					
	土木・建築工事					
	プラント工事					
	外構工事					
試 運 転						
供用開始						

公害防止に係る自主基準値

項 目		自主基準値	法規制値
大気質	硫黄酸化物	20ppm以下	K値規制 ^{注)} K＝9.0 (990ppm程度)
	窒素酸化物	50ppm以下	250ppm以下
	ばいじん	0.01g/m ³ 以下	0.08g/m ³ 以下
	塩化水素	20ppm以下	430ppm以下
	ダイオキシン類	0.01ng-TEQ/m ³ 以下	1ng-TEQ/m ³ 以下
	水銀	0.03mg/m ³ 以下	0.03mg/m ³ 以下
騒 音	昼 間	60デシベル以下	60デシベル以下
	朝・夕	55デシベル以下	55デシベル以下
	夜 間	50デシベル以下	50デシベル以下
振 動	昼 間	60デシベル以下	60デシベル以下
	夜 間	55デシベル以下	55デシベル以下
悪 臭	臭気濃度（敷地境界）	15以下	－

注) K 値規制とは、煙突高さや、排ガス量等に応じて硫黄酸化物の規制値を計算して規制するもので、一つの濃度では表示できません。
なお、K 値が大きいかほど規制値が大きくなります。

環境影響調査項目の選定

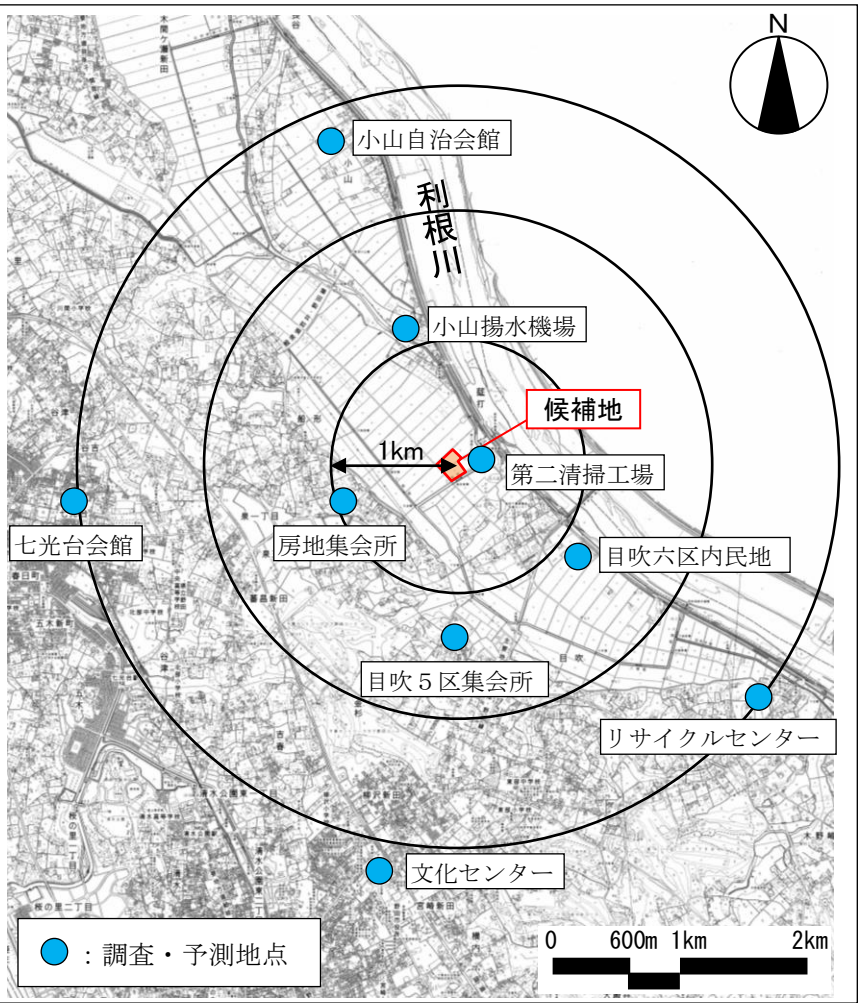
活動要素の区分 環境要素の区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用						
		切土又は盛土	資材又は機械の運搬	仮設工事	基礎工事	施設の設定工事	施設の存在等	ばい煙又は粉じんの発生	排出ガス（自動車等）	排水	騒音若しくは超低周波音又は振動の発生	悪臭の発生	廃棄物の発生
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気質	○	○	○	○	○		○	○				
	水質	○		○	○					○			
	底質	○		○	○	○				○			
	水文環境	○			○	○	○			○			
	騒音及び超低周波音	○	○	○	○	○					○		
	振動	○	○	○	○	○					○		
	悪臭											○	
	地形及び地質等	○		○	○								
	地盤	○			○								
	土壌	○			○			○					
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	風害、光害及び日照阻害						○						
	電波障害						○						
	植物	○		○	○	○	○						
	動物	○		○	○	○	○						
	陸水生生物	○		○	○	○	○			○			
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	生態系	○		○	○	○	○			○			
	景観						○						
	人と自然との触れ合いの活動の場		○				○						
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物			○	○	○							○
	残土	○		○	○								
その他	温室効果ガス等							○					
	安全						○	○					
	農作物						○	○					

注) ○は選定した項目を示します。

調査・予測・評価の結果の概要

大 気 質

環境大気質



調査時期

秋季：H28. 10. 20 ～10. 26

冬季：H29. 1. 24 ～ 1. 30

春季：H29. 4. 20 ～ 4. 26

夏季：H29. 7. 21 ～ 7. 27

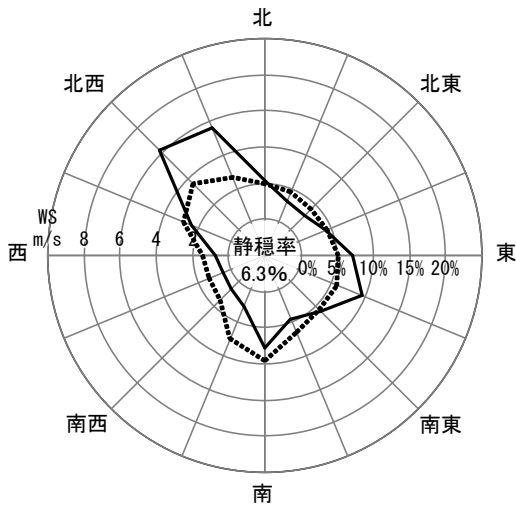
※第二清掃工場地点で
H28. 10. 1～H29. 9. 30
に気象調査も実施

調査結果

環境大気質は、すべての項目、地点で環境基準値を超えたデータはみられませんでした。

また、気象調査の結果は、北西及び北北西の風が多い傾向で、平均風速は 2.5m/秒でした。

凡 例
—— 風向別出現率 (%)
..... 風向別平均風速 (m/秒)
静 穏 0.4m/秒以下
平均風速 2.5m/秒



予測・評価結果

供用時：焼却施設の稼働による影響

【年平均値】

予測結果は、下表のとおりであり、付加率は 0.0～3.2%で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率
地 点	二酸化硫黄 (ppm)				二酸化窒素 (ppm)			
第二清掃工場	0.001	0.000009	0.001009	0.9%	0.011	0.000004	0.011004	0.0%
小山自治会館	0.000	0.000006	0.000006	—	0.011	0.000005	0.011005	0.0%
七光台会館	0.001	0.000009	0.001009	0.9%	0.014	0.000009	0.014009	0.1%
小山揚水機場	0.001	0.000009	0.001009	0.9%	0.011	0.000006	0.011006	0.1%
房地集会所	0.001	0.000014	0.001014	1.4%	0.013	0.000009	0.013009	0.1%
目吹5区集会所	0.001	0.000012	0.001012	1.2%	0.014	0.000008	0.014008	0.1%
文化センター	0.001	0.000006	0.001006	0.6%	0.017	0.000006	0.017006	0.0%
目吹六区内民地	0.001	0.000010	0.001010	1.0%	0.012	0.000007	0.012007	0.1%
リサイクルセンター	0.001	0.000013	0.001013	1.3%	0.011	0.000012	0.011012	0.1%
最大付加濃度地点	0.001	0.000033	0.001033	3.2%	0.011	0.000018	0.011018	0.2%
地 点	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)				水銀 (μg/m ³)			
第二清掃工場	0.022	0.000004	0.022004	0.0%	0.0019	0.000013	0.001913	0.7%
小山自治会館	0.021	0.000003	0.021003	0.0%	0.0021	0.000008	0.002108	0.4%
七光台会館	0.020	0.000004	0.020004	0.0%	0.0020	0.000013	0.002013	0.6%
小山揚水機場	0.020	0.000004	0.020004	0.0%	0.0020	0.000013	0.002013	0.7%
房地集会所	0.021	0.000007	0.021007	0.0%	0.0020	0.000021	0.002021	1.1%
目吹5区集会所	0.022	0.000006	0.022006	0.0%	0.0020	0.000017	0.002017	0.9%
文化センター	0.020	0.000003	0.022003	0.0%	0.0020	0.000010	0.002010	0.5%
目吹六区内民地	0.020	0.000005	0.020005	0.0%	0.0020	0.000015	0.002015	0.8%
リサイクルセンター	0.019	0.000006	0.019006	0.0%	0.0021	0.000019	0.002119	0.9%
最大付加濃度地点	0.022	0.000016	0.022016	0.1%	0.0019	0.000049	0.001949	2.5%
地 点	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)				【1時間値】 予測結果（最大付加濃度）は、以下のとおりです。 二酸化硫黄：0.0033ppm 二酸化窒素：0.0084ppm 浮遊粒子状物質：0.0017mg/m³ 塩化水素：0.0033ppm			
第二清掃工場	0.047	0.000004	0.047004	0.0%				
小山自治会館	0.070	0.000003	0.070003	0.0%				
七光台会館	0.039	0.000004	0.039004	0.0%				
小山揚水機場	0.070	0.000004	0.070004	0.0%				
房地集会所	0.042	0.000007	0.042007	0.0%				
目吹5区集会所	0.034	0.000006	0.034006	0.0%				
文化センター	0.035	0.000003	0.035003	0.0%				
目吹六区内民地	0.039	0.000005	0.039005	0.0%				
リサイクルセンター	0.046	0.000006	0.046006	0.0%				
最大付加濃度地点	0.047	0.000016	0.047016	0.0%				

注1) 現況濃度は、各地点の現地調査4季平均値（最大付加濃度地点は、第二清掃工場の値）

注2) 付加率 = 付加濃度 / 将来濃度

【環境保全措置】

- ・排出ガスは、物質ごとに適切な排出ガス処理技術により法規制よりも厳しい自主基準値を満足させて排出します。
- ・ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで大気汚染物質の低減に努めます。

降下ばいじん

調査結果

4地点で4季に各1ヵ月調査した結果は、1.1～11 t /km²/30 日で、秋季、冬季には稲わら焼きの影響と推定される高めの値もありましたが、全体的に低めの値でした。

予測・評価結果

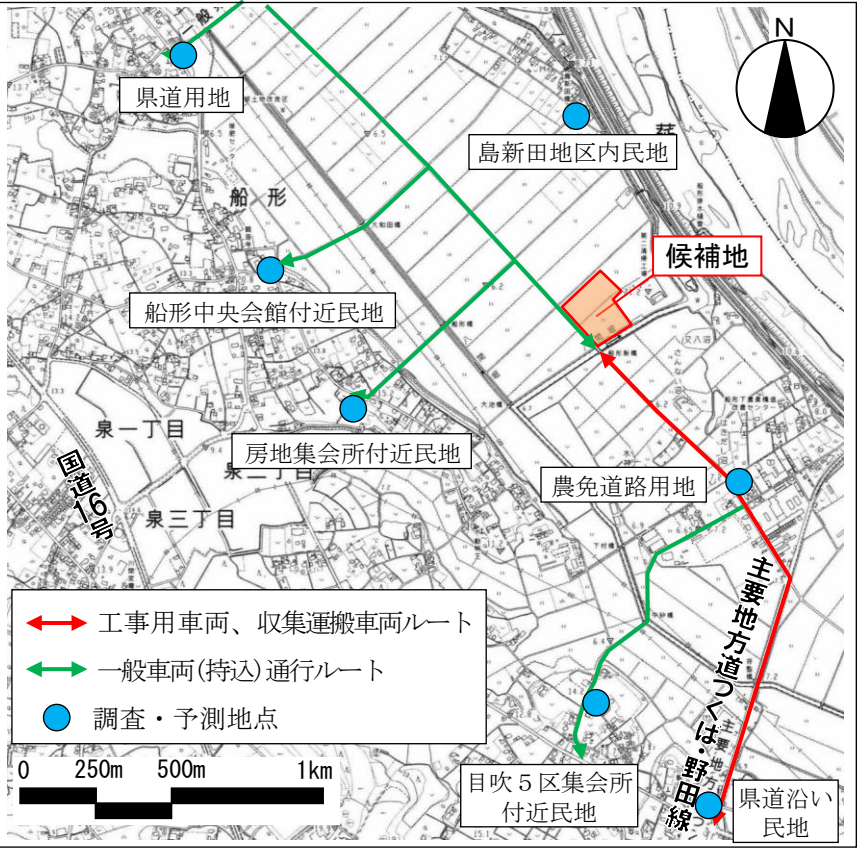
施工時：工事の実施による影響

現地調査地点について季節ごとに予測した付加量は、0.6～3.0 t /km²/30 日であり影響は小さいと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・粉じんの飛散を防止するために、適宜、散水を行います。
- ・場内に掘削土等を仮置きする場合は、必要に応じて粉じんの飛散を防止するためにシート等で養生します。
- ・工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制します。
- ・工事車両は、洗車を行い、構内で車輪・車体等に付着した土砂を十分除去したことを確認した後に退出します。

道路交通大気質



調査時期

- 秋季：H28. 10. 20 ～10. 26
冬季：H29. 1. 24 ～ 1. 30
春季：H29. 4. 20 ～ 4. 26
夏季：H29. 7. 21 ～ 7. 27

調査結果

いずれの項目、地点でも環境基準値を超えたデータはみられませんでした。

予測・評価結果

施工時：工事用車両の走行による影響

予測結果は下表のとおりであり、付加率は0.00～0.15%で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

地 点	二酸化窒素 (ppm)				浮遊粒子状物質 (mg/m ³)			
	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率
農免道路用地	0.014	0.000021	0.014021	0.15%	0.021	0.000002	0.021002	0.00%
県道沿い民地	0.027	0.000017	0.027017	0.06%	0.024	0.000001	0.024001	0.00%

注1) 現況濃度は、各地点の現地調査4季平均値

注2) 付加率 = 付加濃度 / 将来濃度

【環境保全措置】

- ・工事工程等を十分検討し、工事関係車両の走行が平準化するように努めます。
- ・工事車両は、可能な限り最新排出ガス規制適合車を使用します。
- ・空ぶかしの禁止やアイドリングストップ等を励行し、運転者の教育を徹底します。
- ・工事車両の整備、点検を徹底します。

供用時：廃棄物運搬車両の走行による影響

予測結果は下表のとおりであり、付加率は0.00～0.19%で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

地 点	二酸化窒素 (ppm)				浮遊粒子状物質 (mg/m ³)			
	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率
県道用地	0.012	0.000002	0.012002	0.02%	0.024	0.000000	0.024000	0.00%
船形中央会館付近民地	0.013	0.000000	0.013000	0.00%	0.022	0.000000	0.022000	0.00%
房地集会所付近民地	0.013	0.000000	0.013000	0.00%	0.020	0.000000	0.020000	0.00%
農免道路用地	0.014	0.000027	0.014027	0.19%	0.021	0.000002	0.021002	0.01%
県道沿い民地	0.027	0.000022	0.027022	0.08%	0.024	0.000002	0.024002	0.01%
目吹5区集会所付近民地	0.014	0.000001	0.014001	0.01%	0.022	0.000000	0.022000	0.00%
島新田地区内民地	0.011	0.000000	0.011000	0.00%	0.023	0.000000	0.023000	0.00%

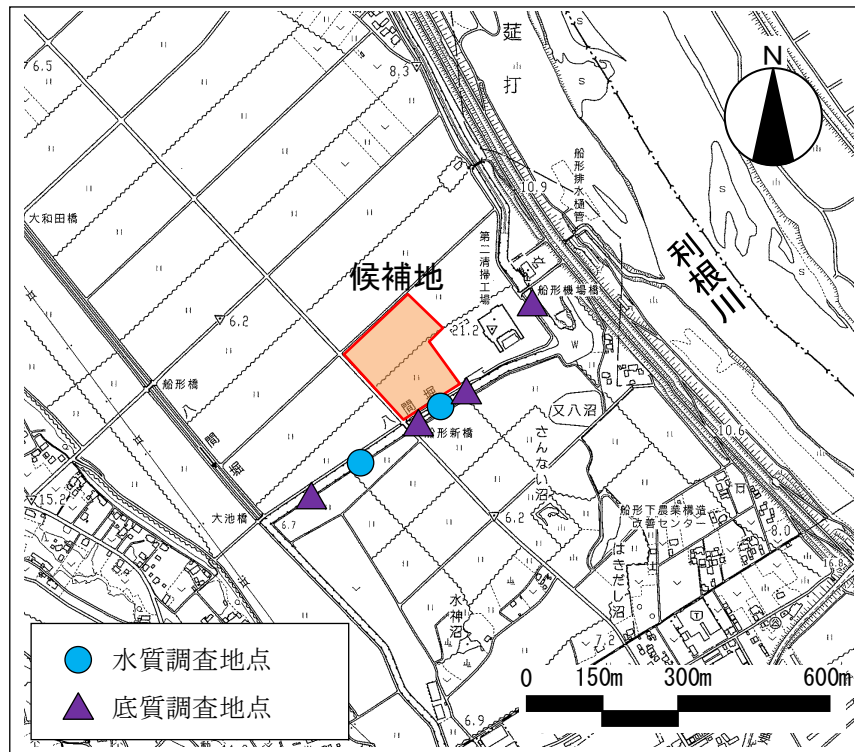
注1) 現況濃度は、各地点の現地調査4季平均値

注2) 付加率 = 付加濃度 / 将来濃度

【環境保全措置】

- ・廃棄物搬入車両が一定時間に集中しないように搬入時間の分散を行います。
- ・収集車両は、可能な限り最新排出ガス規制適合車を使用します。
- ・収集車両は、不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底します。
- ・収集車両の整備、点検を徹底します。

水質・底質



調査時期

(水質)

通常時：1回/月×12ヵ月
(H28.10～H29.9)

降雨時：H29.6.21

(底質)

秋季：H28.10.20

冬季：H29.1.25

春季：H29.4.21

夏季：H29.7.25

予測・評価結果

施工時：工事の実施による影響

土木工事等の実施に伴う土砂の掘削や裸地の出現等により、降雨時の濁水等の発生が考えられますが、下記の環境保全措置を講じることにより、公共用水域（八間堀）への影響は小さくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制します。
- ・急激な出水や濁水及び土砂等の流出が生じないように濁水等を一時的に貯留する仮設沈砂池を設置します。
- ・工事中に発生する排水は必要に応じて排水処理設備で処理し、河川放流可能な水質とした上で河川放流します。
- ・沈砂池からの放流時に濁度及び水素イオン濃度（pH）を測定し、問題ないことを確認します。
- ・堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去します。
- ・台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート掛け、土嚢による養生等の対策を講じます。

供用時：焼却施設稼働による影響

供用時の焼却施設からの生活排水は、プラント排水とともに、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧します。したがって、公共用水域（八間堀）の水質及び底質に変化はないと予測し、環境影響が回避されていると評価します。

調査結果

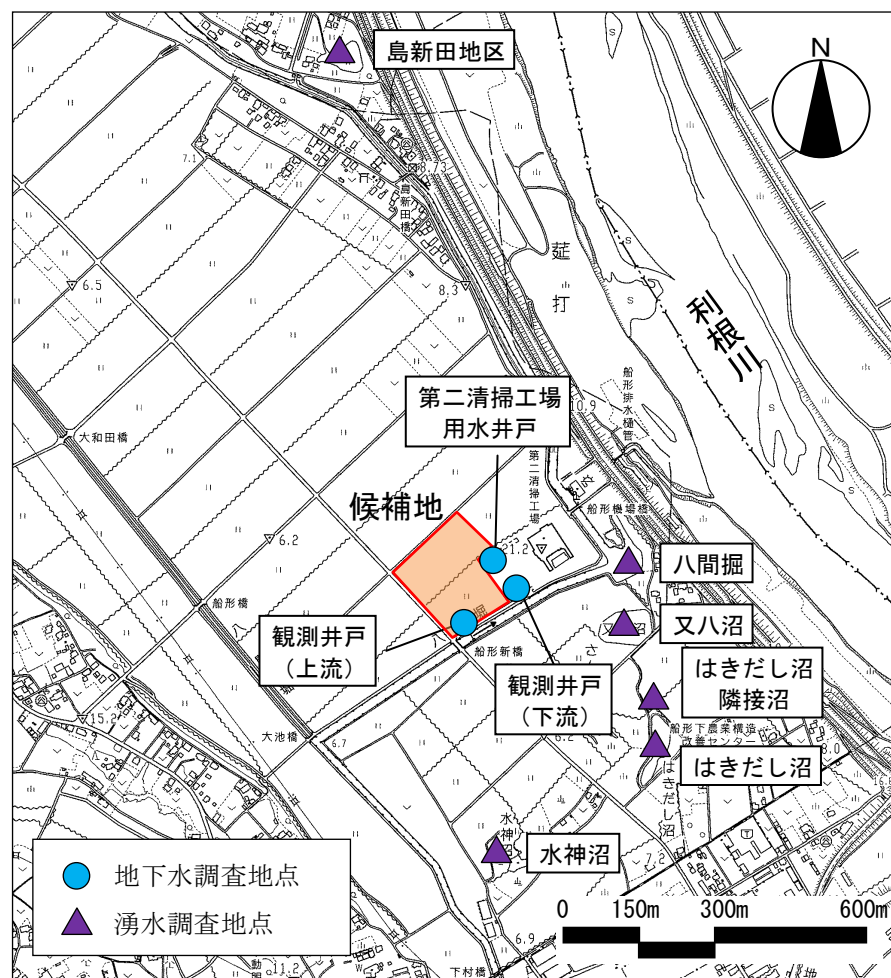
<水 質>

環境基準の設定されている健康項目（有害物質、27項目）は、いずれの地点も環境基準を超えたデータはみられませんでした。また、地点間の差もほとんどありませんでした。

<底 質>

環境基準の設定されているダイオキシン類については、すべての地点で環境基準を超えたデータはみられませんでした。

水 文 環 境



調査時期

(地下水位)

H28. 12. 1～H29. 11. 30

(地下水質)

冬季：H29. 1. 24

春季：H29. 4. 3

夏季：H29. 7. 21

秋季：H29. 9. 14

(湧水)

秋季：H28. 10. 25

冬季：H29. 2. 10

春季：H29. 4. 25

夏季：H29. 7. 12

調査結果

<地下水位>

年間の水位変動は、観測井戸（上流）で-3.217～-1.907m（水位差 1.310m）、観測井戸（下流）で-3.232～-2.057m（水位差 1.175m）、第二清掃工場用水井戸で-29.078～-12.228m（水位差 16.850m）となっていました。観測井戸（上流、下流）については、水位変動は降雨の影響が考えられ、第二清掃工場用水井戸については、取水の状況によるものと考えられます。

<地下水質>

観測井戸（上流、下流）の砒素を除いたすべての項目で環境基準を超えたデータはみられません。基準を超えた原因については、砒素は自然界に存在する物質であり、候補地周辺に工場などの発生源が存在しないこと、第二清掃工場では砒素を含有する薬品等の使用はないことや、千葉県内の利根川沿いの井戸での調査でも自然由来と考えられる基準超過が多く報告されていることから、自然に由来することが推定されます。

<湧 水>

調査した池沼のうち、はきだし沼、又八沼及び水神沼では4季を通して、ほとんど水位の変化がみられず、湧水による池沼であると推測されます。

予測・評価結果

施工時：工事の実施による影響

地下構造物として、ごみピットを設置しますが、プラットホームを2階に設置するなど、ごみピットの掘削深さを小さくすること、可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法を採用することから、地下水位の低下は小さいと考えられます。また、調査地点は利根川に面した氾濫原に相当するため、地下水位と河川水は密接に関連していると考えられます。

したがって、地下水面以下で掘削を行う場合においても利根川から河川水が供給され広域的な水位低下が生じるとは考えにくいことから、地下水位の変化は小さく、著しい影響はないものと予測します。同様の理由から湧水への著しい影響もないものと予測します。

また、地下水質の現況調査で環境基準超過が確認された砒素による周辺地下水質への影響に対しては、ごみピットの設置工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など、地下水の影響が生じない工法を採用し、適宜周辺地下水の状況をモニタリングし必要に応じて対策を講じることとするので、影響が拡散しないと予測します。

以上から環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法等を検討する。また、杭の施工にあたっては、地下水位への影響が極力小さくなるような工法等を検討します。
- ・ごみピットの計画にあたっては、掘削深さを小さくするよう検討します。
- ・ごみピットの設置工事にあたっては、適宜周辺地下水の状況をモニタリングし必要に応じて対策を講じます。

供用時：焼却施設の存在による影響

<地下水位、湧水>

地下構造物として、ごみピットを設置しますが、プラットホームを2階に設置するなど、ごみピットの掘削深さを小さくすることから、地下水位の低下は小さいと考えられます。また、調査地点は利根川に面した氾濫原に相当するため、地下水位と河川水は密接に関連していると考えられます。

したがって、地下水面以下に地下工作物が存在する場合においても利根川から河川水が供給され広域的な水位低下が生じるとは考えにくいことから、地下水位の変化は小さく、著しい影響はないと予測します。同様の理由から湧水への著しい影響もないと予測します。

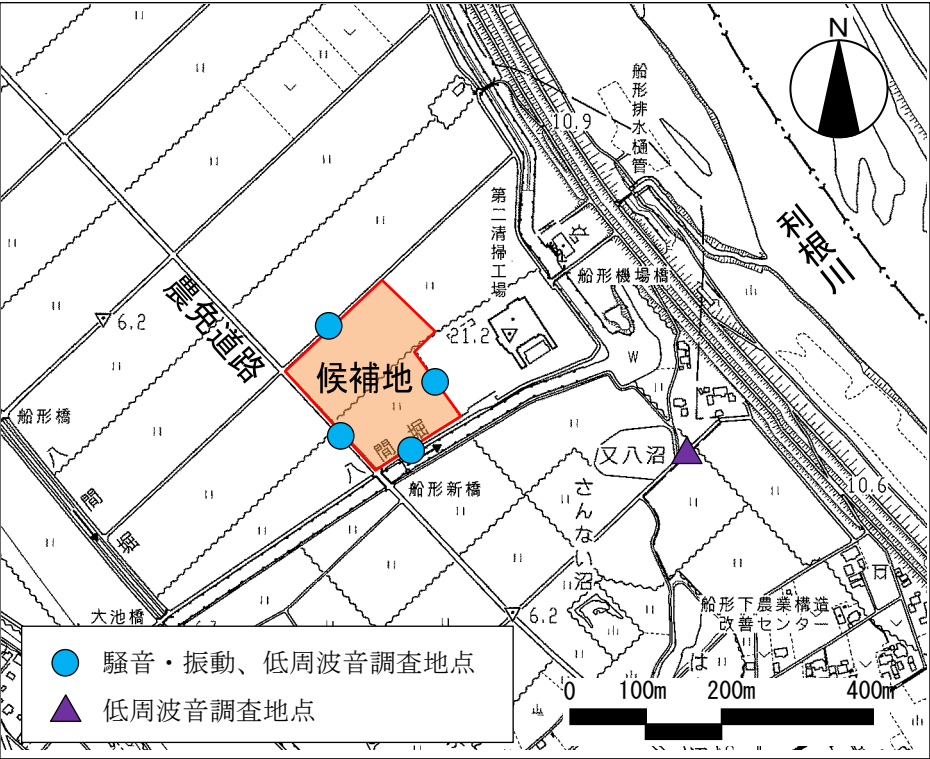
以上から環境影響ができる限り低減されていると評価します。

供用時：焼却施設の稼働（排水）による影響

焼却施設からの生活排水は、プラント排水とともに、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧します。したがって、公共用水域の流況に変化はないと予測し、環境影響が回避されていると評価します。

騒音 及び 超低周波音、振動

環境騒音・振動、超低周波音



調査時期

H29. 3. 16～H29. 3. 17

調査結果

＜騒音＞

昼間（6時～22時）は46～64デシベル、夜間（22～6時）は38～56デシベルで、農免道路に面した地点の値が他地点より高めでした。

＜振動＞

昼間（8時～19時）は27～50デシベル、夜間（19～8時）は25未満～35デシベルで、騒音と同様に農免道路に面した地点の値が他地点より高めでしたが、すべての地点で、振動感覚閾値（人が振動を感じはじめるとされる55デシベル）以下でした。

＜低周波音＞

67.7～77.0デシベルで、農免道路に近い3地点の値が、他2地点より高めでした。

予測・評価結果

施工時：建設機械の稼働による影響

＜騒音、振動＞

候補地敷地境界での予測結果は、右表のとおりであり、いずれも規制基準を満足すると予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

項目	工事内容	予測結果 (最大値)	規制基準
騒音	建築工事 プラント工事	79デシベル	85デシベル以下
振動	敷地造成工事	60デシベル	75デシベル以下

【環境保全措置】

- ・建設機械は、低騒音型の建設機械を使用します。
- ・工事工程を十分検討し、建設機械の集中稼働を避け、建設機械の効率的利用に努めます。
- ・建設機械の整備、点検を徹底します。
- ・建設機械の空ぶかしの禁止やアイドリングストップ等を励行します。

供用時：焼却施設の稼働による影響

＜騒音、振動＞

候補地敷地境界での予測結果は右表のとおりであり、いずれも規制基準を満足すると予測します。また、振動は、振動感覚閾値以下となります。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

項目	予測結果 (最大値)	規制基準
騒音	49デシベル	50デシベル以下
振動	44デシベル	55デシベル以下

【環境保全措置】

- ・設備機器類については、低騒音型・低振動型機器の採用に努めます。
- ・設備機器類は建屋内への配置を基本とし、騒音の低減に努めます。
- ・外部への騒音の漏洩を防ぐため工場棟出入口にシャッターを設け、可能な限り閉鎖します。
- ・騒音の大きな設備機器類については、防音構造の室内に収納し、内側に吸音処理を施すなどの対策を講じます。
- ・振動の著しい設備機器類は、独立基礎や防振装置を設けるなどの対策を講じます。
- ・設備機器の整備、点検を徹底します。

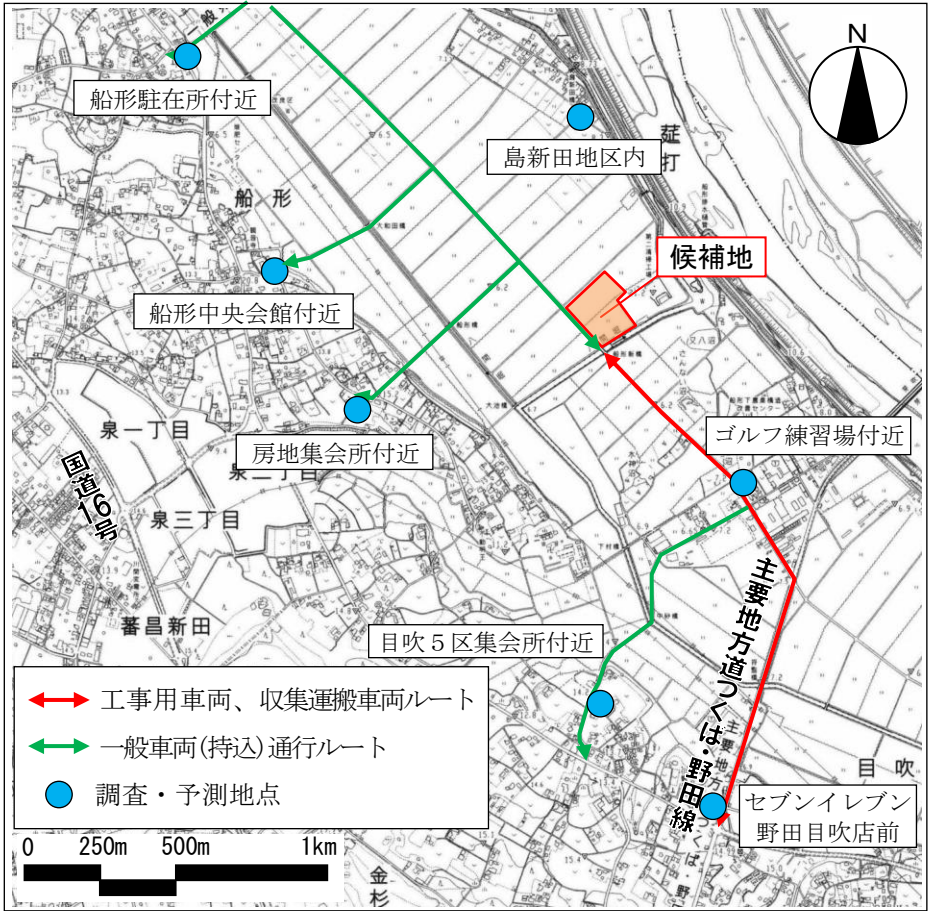
＜低周波音＞

類似施設での調査結果から、下記の環境保全措置を講じることにより、影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・設備機器は、低騒音・低振動型機器の採用に努め、低周波音の発生を軽減します。
- ・設備機器は、建屋内に設置し、開口部は極力閉じた状態で稼働します。
- ・設備機器の整備、点検を徹底します。
- ・低周波音に係る苦情が発生した場合には、聞き取りや現場の確認、測定の実施などにより低周波音の発生状況を的確に把握し、適切な対策を検討のうえ実施します。

道路騒音・振動



調査時期

平日：H29.3.16～H29.3.17
H29.3.7～H29.3.8
H29.3.9～H29.3.10

休日：H29.3.11～H29.3.12

調査結果

＜騒音＞

平日の昼間（6時～22時）は47～73デシベル、夜間（22～6時）は37～72デシベルで、休日の昼間は47～72デシベル、夜間は41～68デシベルでした。各地点とも、概ね平日と休日の値が同等か、平日がやや高い値となっていました。

＜振動＞

平日の昼間（8時～19時）は25～47デシベル、夜間（19～8時）は25未満～44デシベルで、休日の昼間は28～46デシベル、夜間は25未満～38デシベルで、すべて振動感覚閾値を下回っていました。各地点とも概ね平日と休日の値が同等か、平日がやや高い値となっていました。

予測・評価結果

施工時：工事用車両の走行による影響

＜騒音＞

予測結果は下表のとおりであり、セブンイレブン野田目吹店前地点では、参考基準値を上回りますが、騒音レベルの増加量は0.2デシベルであり、現況騒音レベルとほとんど変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

単位：デシベル						
予測地点	道路名	時間区分	現況騒音レベル	将来騒音レベル	増加量	参考基準値 ^{注)}
ゴルフ練習場付近	農免道路	昼間	62.7	63.6	0.9	65
セブンイレブン野田目吹店前	つくば野田線	昼間	72.9	73.1	0.2	70

注) いずれの地点も環境基準の類型指定がなされていないため、道路の状況や周辺の土地利用状況等を考慮して、ゴルフ練習場付近地点はB地域の道路に面する地域の騒音に係る環境基準、セブンイレブン野田目吹店前地点は幹線交通を担う道路に近接する空間の騒音に係る環境基準を参照のうえ参考基準値を設定した。

＜振動＞

予測結果は下表のとおりであり、いずれの地点も振動感覚閾値を下回ると予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

単位：デシベル

予測地点	道路名	時間区分	ピーク時間帯	現況振動レベル	将来振動レベル	増加量	参考基準値 ^{注)}
ゴルフ練習場付近	農免道路	昼間	15時～16時	44.3	46.2	1.9	55
セブンイレブン 野田目吹店前	つくば野田線	昼間	11時～12時	47.4	47.4	0.0	

注) いずれの地点も振動規制法の要請限度が適用されないため、周辺の土地利用状況等を考慮して、振動感覚閾値を参照のうえ参考基準値を設定した。

【環境保全措置】

- ・工事工程等を十分検討し、工事関係車両の走行が平準化するように努めます。
- ・空ぶかしの禁止やアイドリングストップ等を励行し、運転者の教育を徹底します。
- ・工事用車両の整備、点検を徹底します。

供用時：廃棄物運搬車両の走行による影響

＜騒音＞

予測結果は下表のとおりであり、セブンイレブン野田目吹店前地点では、参考基準値を上回りますが、騒音レベルの増加量は0.0デシベルであり、現況騒音レベルと変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

単位：デシベル						
予測地点	道路名	時間区分	現況騒音レベル	将来騒音レベル	増加量	参考基準値 ^{注)}
船形駐在所付近	岩井野田線	昼間	63.2	63.4	0.2	65
船形中央会館付近	市道13129号線	昼間	55.1	56.0	0.9	65
房地集会所付近	市道1314号線	昼間	51.2	52.4	0.2	65
ゴルフ練習場付近	農免道路	昼間	62.7	63.0	0.3	65
セブンイレブン野田目吹店前	つくば野田線	昼間	72.9	72.9	0.0	70
目吹5区集会所付近	市道2120号線	昼間	63.1	63.2	0.1	65
島新田地区内	市道13104号線	昼間	46.8	47.1	0.3	65

注) いずれの地点も環境基準の類型指定がなされていないため、道路の状況や周辺の土地利用状況等を考慮して、セブンイレブン野田目吹店前地点は幹線交通を担う道路に近接する空間の騒音に係る環境基準のうち車線を有する道路に面する地域。それ以外の地点は、船形中央会館付近地域道路に面する地域の騒音に係る環境基準を参照のうえ参考基準値を設定した。

＜振動＞

予測結果は下表のとおりであり、いずれの地点も振動感覚閾値を下回ると予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

単位：デシベル

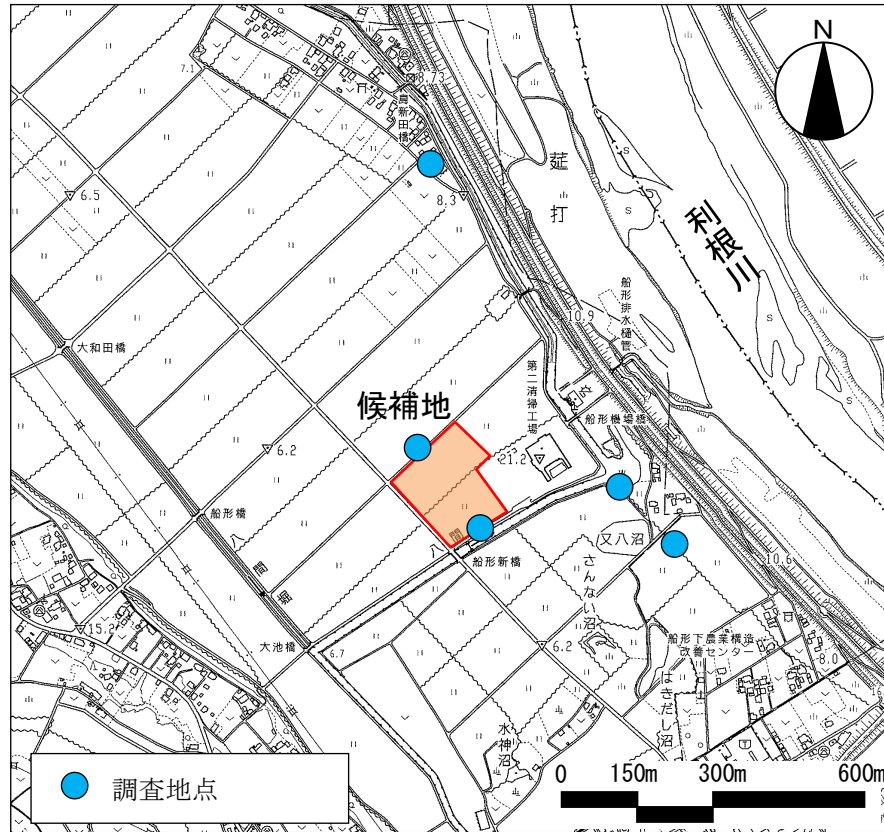
予測地点	道路名	時間区分	ピーク時間帯	現況振動レベル	将来振動レベル	増加量	参考基準値 ^{注)}
船形駐在所付近	岩井野田線	昼間	8時～9時	42.3	42.5	0.2	55
船形中央会館付近	市道13129号線	昼間	10時～11時	29.4	30.8	1.4	
房地集会所付近	市道1314号線	昼間	10時～11時	32.0	32.2	0.2	
ゴルフ練習場付近	農免道路	昼間	15時～16時	44.3	45.8	1.5	
セブンイレブン 野田目吹店前	つくば野田線	昼間	11時～12時	47.4	47.4	0.0	
目吹5区集会所付近	市道2120号線	昼間	15時～16時	50.3	50.4	0.1	
島新田地区内	市道13104号線	昼間	10時～11時	34.3	36.7	2.4	

注) いずれの地点も振動規制法の要請限度が適用されないため、周辺の土地利用状況等を考慮して、振動感覚閾値を参照のうえ参考基準値を設定した。

【環境保全措置】

- ・廃棄物運搬車両が一定時間に集中しないように搬入時間の分散を行います。
- ・廃棄物運搬車両は、不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底します。
- ・廃棄物運搬車両の整備、点検を徹底します。

悪臭



調査時期

秋季	: H28. 10. 25
冬季	: H29. 1. 25
春季	: H29. 4. 21
夏季	: H29. 7. 25

夏季：H29. 7. 25

調査結果

特定悪臭物質（全 22 項目）濃度は、一部の調査のアセトアルデヒドを除き、すべての項目で定量下限値未満でした。アセトアルデヒドについても、低濃度であり、現地で臭気は感じられませんでした。臭気指数は、4 季ともに、いずれの地点も 10 未満で、著しい臭気の発生は認められませんでした。

調査結果

特定悪臭物質（全 22 項目）濃度は、一部の調査のアセトアルデヒドを除き、すべての項目で定量下限値未満でした。アセトアルデヒドについても、低濃度であり、現地で臭気は感じられませんでした。臭気指数は、4 季ともに、いずれの地点も 10 未満で、著しい臭気の発生は認められませんでした。

予測・評価結果

供用時：焼却施設の稼働による影響

施設に搬入・貯留される廃棄物や煙突排ガスによる影響は、下記の環境保全措置を講じることにより、大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感知しない程度になると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・ごみピット内を常に負圧に保ち、臭気が外部に拡散しない構造とします。
- ・ごみピット内の空気を燃焼用空気として炉内に送風し、高温酸化処理します。
- ・廃棄物の保管場所、処理設備等は建屋内への配置を基本とし、搬入や荷下ろし等の作業を屋内で行うことで、臭気の漏洩を防止します。
- ・廃棄物運搬車両が出入するプラットホームの出入口には、エアカーテン等を設置し、搬出入時以外は可能な限りシャッターで外部と遮断することにより、外気の通り抜けによる臭気の漏洩を防止します。
- ・休炉時には、ごみピット内の臭気が外部に拡散しないよう、脱臭装置により吸引し脱臭を行う。また、ごみピット、プラットホームには、休炉時など必要に応じて消臭剤を噴霧します。
- ・プラットホームの洗浄を適宜行います。

地形及び地質等、地盤

予測・評価結果

施工時：工事の実施による影響

候補地は、平坦な地形であり、大規模な地形改変を行わないことから、地盤安定性の変化は小さいと予測します。

また、地下構造物として、ごみピットを設置しますが、水文環境で予測したように下記の環境保全措置を講じることにより、地下水位の変化は小さく、地盤沈下が発生する可能性は小さいと予測します。

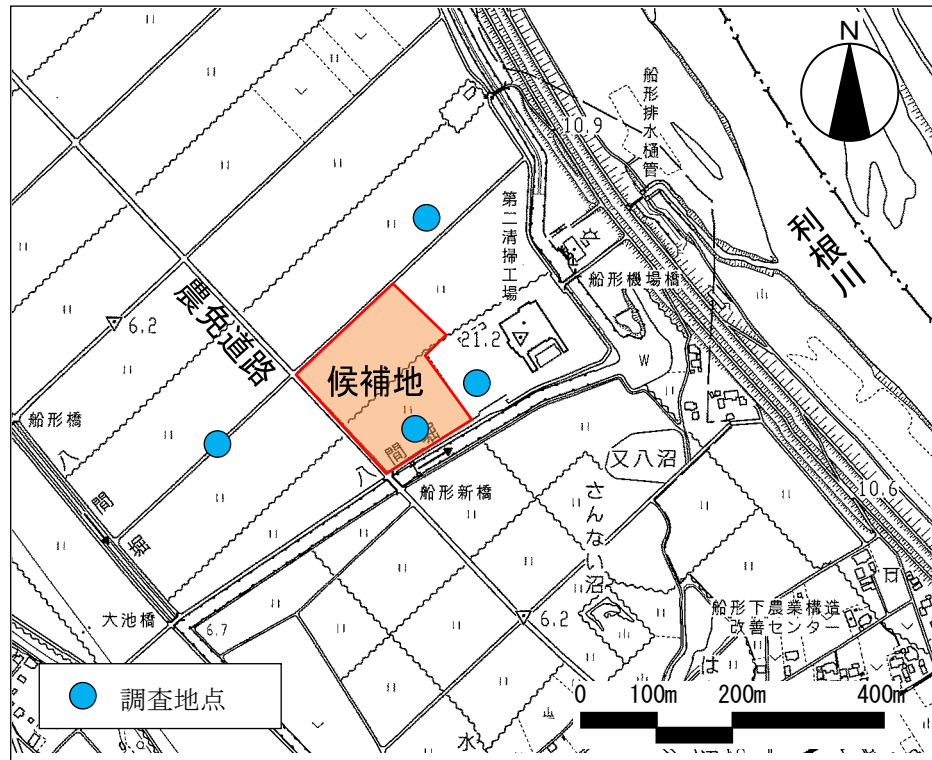
以上から環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・候補地内でのボーリング調査を行い、土質等を把握したうえで適切な工法を採用します。
- ・工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法等を検討します。また、杭の施工にあたっては、地下水位への影響が極力小さくなるような工法等を検討します。
- ・ごみピットの計画にあたっては、掘削深さを小さくするよう検討します。

土 壌

候補地内及び近傍土壌



調査時期

H29. 3. 23

調査結果

いずれの地点も、土壌汚染対策法の基準値を超えたデータはみられませんでした。

予測・評価結果

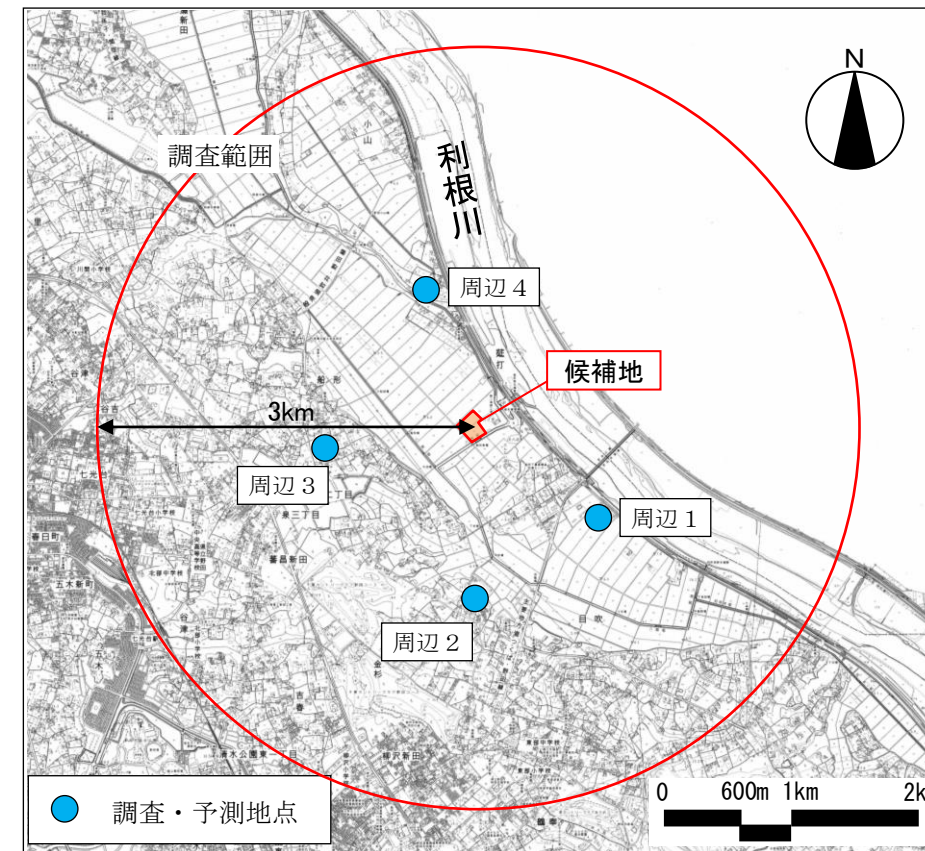
施工時：工事の実施による影響

候補地における土壌の現地調査結果は、すべての項目で土壌汚染対策法の指定基準を下回っています。
また、ごみピットの設置工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など、地下水の影響が生じない工法を採用し、地下水の影響が拡散しないようにしたうえで、掘削した土砂を候補地外へ搬出するにあたり、地下水との接触による搬出土の汚染がないことなど、受入先の受入基準との適合状況を確認することから、敷地造成工事、土木工事等に伴う土砂の移動による土壌汚染の影響はないと予測し、環境影響が回避されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・工事にあたっては、適切な山留め壁の設置など可能な限り地下水位への影響が小さくなるような工法等を検討します。
- ・プラットホームを2階に設置し、地下構造物となるごみピットの掘削深度を浅くします。
- ・候補地外へ土壌を搬出する場合は、受入先の受入基準との適合状況を確認する等、関係法令等を遵守し、適正に処理・処分を行います。
- ・工事に先立ち土壌汚染対策法に基づき調査を行い、汚染等が確認された場合には、土壌汚染対策法に基づく手続きに従い、適切な対応を講じます。

候補地周辺土壌



調査時期

H29. 2. 21

調査結果

いずれの地点も、環境基準や土壌汚染対策法の基準値を超えたデータはみられませんでした。

予測・評価結果

供用時：焼却施設の稼働による影響

焼却施設の稼働が30年と仮定した場合の土壌中のダイオキシン類濃度の予測結果は、下表のとおりであり、付加率は0.01～0.09%で将来濃度は現況濃度とほとんど変わらないと予測し、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

単位：pg-TEQ/g

予測地点	現況濃度	付加濃度	将来濃度	付加率	環境基準
周辺1	6.4	0.0014	6.401	0.02%	1,000 以下
周辺2	14		14.001	0.01%	
周辺3	1.5		1.501	0.09%	
周辺4	9.2		9.201	0.02%	

【環境保全措置】

- ・排出ガスは、法規制よりも、より厳しい目標値を満足させて排出します。
- ・ダイオキシン類は、燃焼温度、ガス滞留時間等についてダイオキシン類の発生を防止する条件を設定のうえ管理を十分に行い、安定燃焼の確保に努めます。さらに、消石灰等とともに活性炭を吹き込み、ダイオキシン類を吸着して、バグフィルタで除去する。また、触媒脱硝装置では、特定の金属を担持させた触媒により分解します。
- ・ごみ質の均一化を図り適正負荷による安定した燃焼を維持することで、大気汚染物質の低減に努めます。

風害、光害及び日照阻害

風 害

予測・評価結果

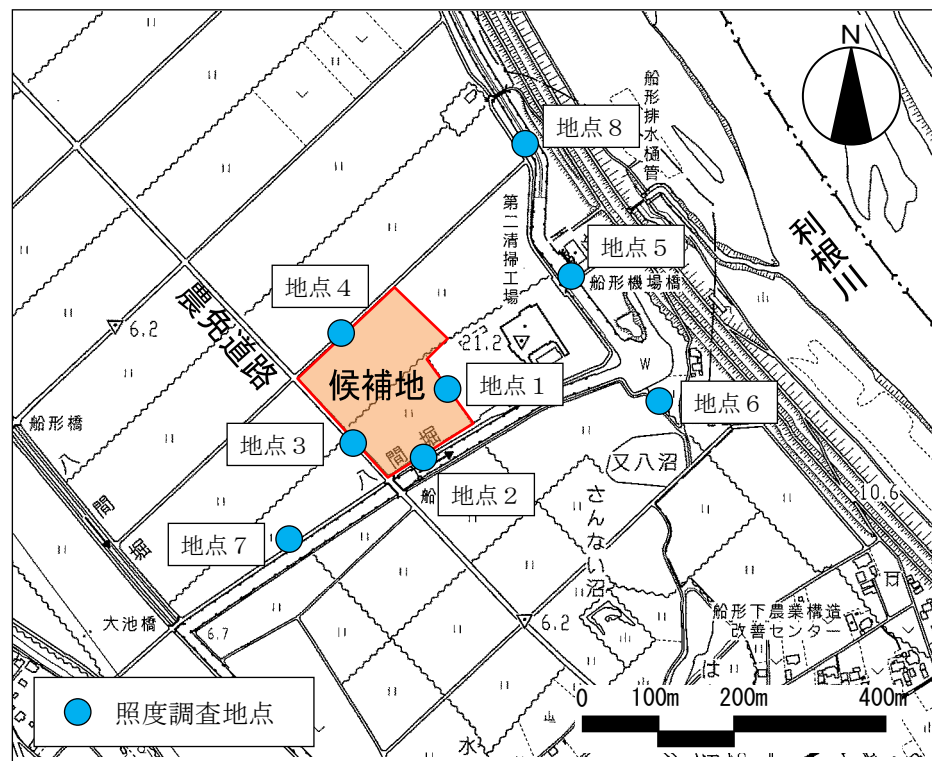
供用時：焼却施設の存在による影響

施設の存在による風速増加の可能性のある範囲は、下記の環境保全措置を講じることにより概ね候補地内となることから、影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- 工場棟を候補地の中央に配置し、候補地外への建物の影響を低減します。

光 害



調査時期

新月日：H28. 11. 30

満月日：H28. 12. 15

調査結果

候補地敷地境界付近及び周辺の照度は、新月日で0.015～0.442ルクス、満月日で0.180～0.631ルクスでした。（※数ルクスの光で稲作への影響があるという事例が報告されています。）

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在による影響

建物の明かりや外灯による影響は、下記の環境保全措置を講じることにより、ほとんどなくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

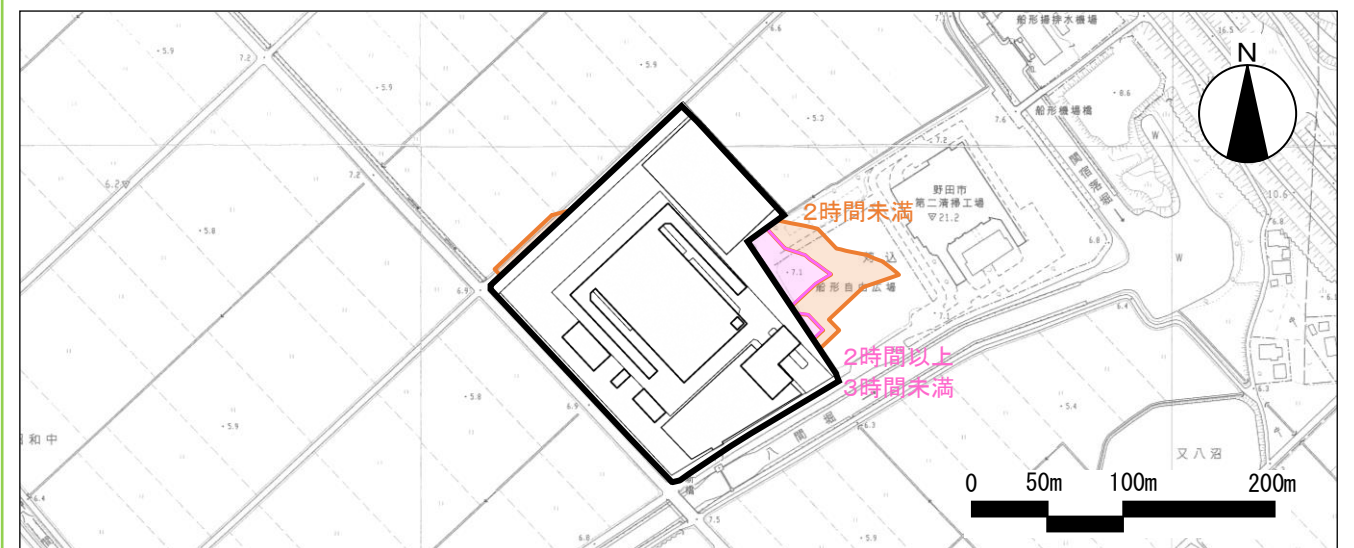
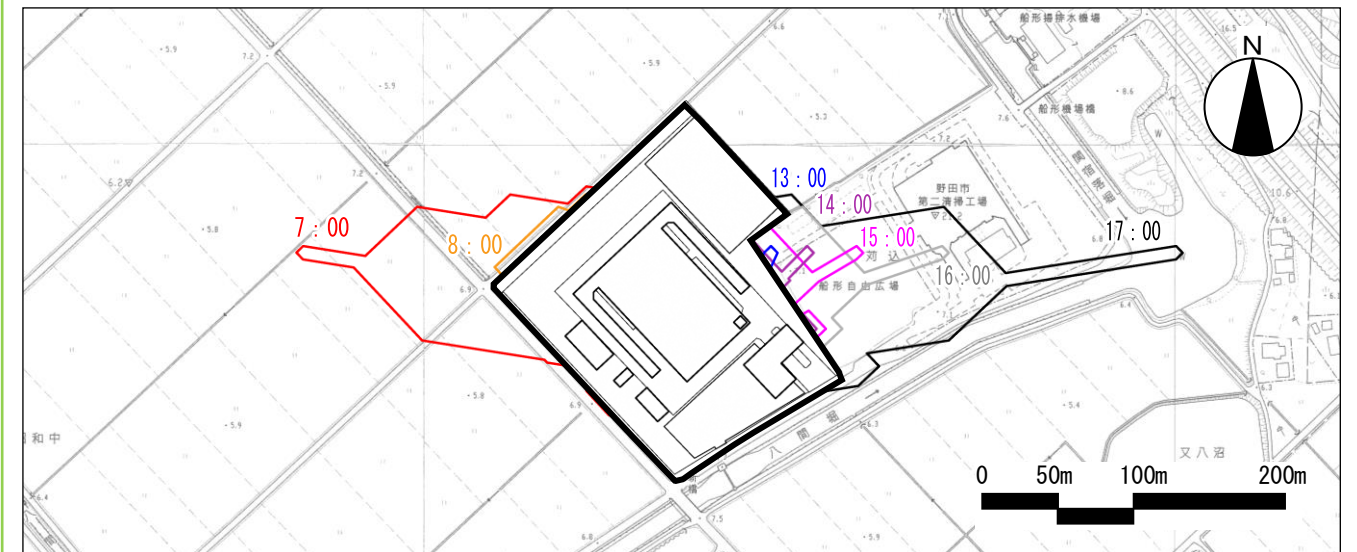
- 夜間は窓から明かりが漏れないようブラインドをおろします。
- 外灯等は遮光板の設置等により周囲に光が漏れないようにします。

日照阻害

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在による影響

下記の環境保全措置を講じることにより、秋分日の時刻別日影図及び等時間日影図は、下図のとおりとなり、建物の影が2時間以上隣接する水田に落ちることはないと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。



【環境保全措置】

- 候補地に隣接する水田への日影の影響を考慮して、工場棟及び煙突を北寄りに配置します。

電 波 障 害

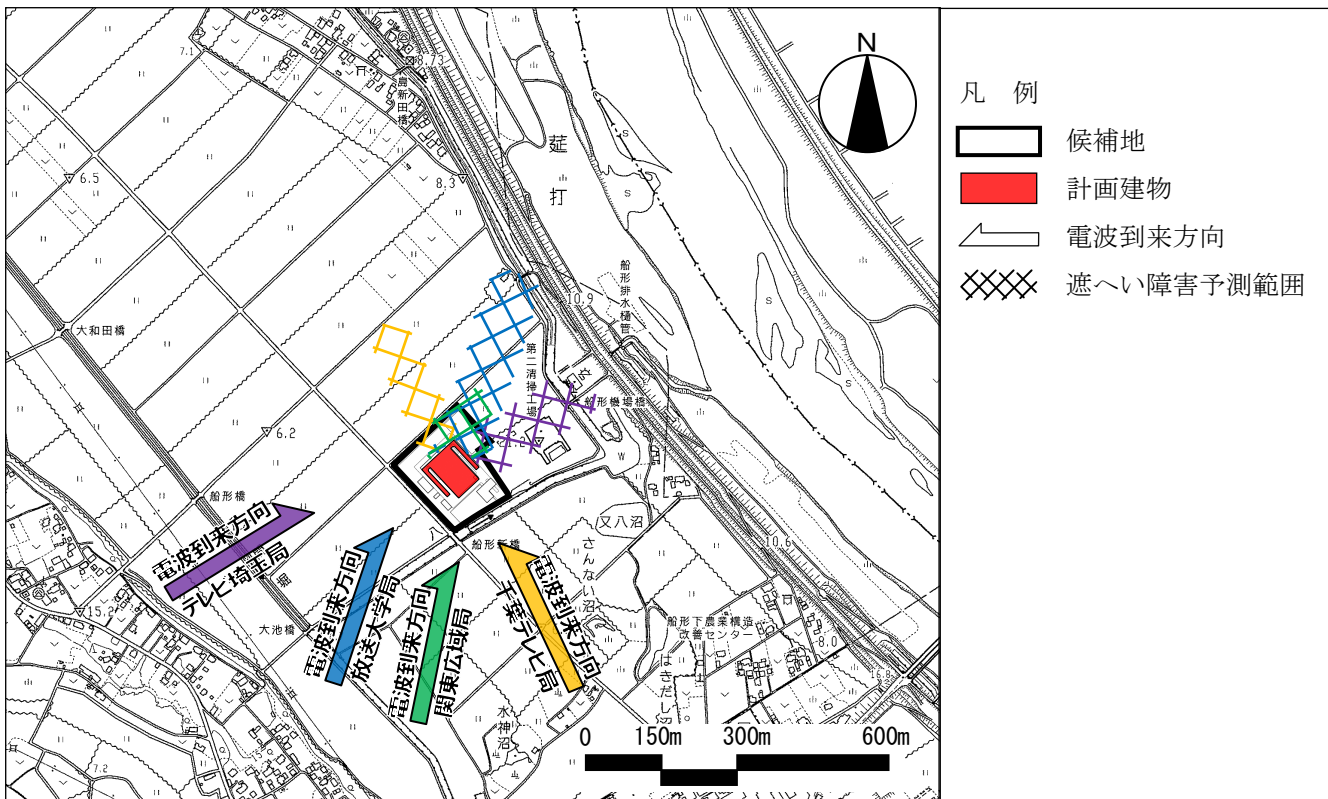
調査結果

候補地周辺の地上デジタル波の受信レベルは、良好な結果となっていました。

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在による影響

建物による電波障害の予測結果は下記のとおりで、遮へい障害予測範囲に含まれる住居は、放送大学局で1棟であり、障害が出た場合には下記の環境保全措置を講じることにより、影響は小さくなると予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。



【環境保全措置】

- ・本事業の実施（施工中、供用後）に伴い発生するテレビ受信障害については、障害の状況についての実態調査を行い、事前調査の結果と照合、確認のうえ、その内容に応じてアンテナ対策等適切な改善対策を講じます。
- ・問い合わせ窓口の周知を行います。

植物、動物、陸水生物、生態系

植 物

調査結果

候補地とその周囲概ね 200mの範囲で植物相を調査した結果は右表のとおりで、そのうち 11 種が重要種に該当しました。

分類名			確認種数	重要種数
シダ植物			5	11
裸子植物			0	
被子植物	双子葉植物	離弁花類	131	
		合弁花類	92	
	単子葉植物		89	
合 計			317	

予測・評価結果

施工時及び供用時：工事の実施及び焼却施設の存在による影響

直接的な改変により、候補地内の植物は一部を除き消失しますが、周辺の水田雑草群落は広く残ることから、植物相に変化はないと予測します。重要種については、周辺にも広く存在することから、生育状況の変化は小さいと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・施工時における工事用道路や施工ヤードを候補地内において確保するとともに、本事業による改変面積が可能な限り小さくなるよう配慮します。
- ・樹木を植栽する場合には、候補地の立地条件を考慮し、可能な限り候補地周辺に生育する樹木やその実生を用い、地域の生物多様性の保全に配慮する。なお、地域の植生に影響を及ぼすような侵略的外来種（国内外来種を含む）は用いないこととします。
- ・候補地の敷地境界付近に生育する重要な植物種については、調査結果をもとに詳細設計段階において可能な限り現状のまま残すように検討するとともに、現状のまま残せる場合には、工事開始前に生育位置を確認し、誤って改変しないように配慮します。

動 物

調査結果

候補地とその周囲概ね 200mの範囲で動物相を調査した結果は右表のとおりで、そのうち 44 種が重要種に該当しました。また、概ね 2km の範囲で猛禽類を調査した結果、繁殖は確認されませんでした。

分 類	確認種数	重要種数
哺乳類	7	2
鳥 類	57	25
両生類	4	1
爬虫類	4	3
昆虫類	452	13
合 計	524	44

予測・評価結果

施工時及び供用時：工事の実施及び焼却施設の存在による影響

候補地内のみで確認された種はなく、候補地と同様の生息環境である水田雑草群落は広く存在することから、動物相は変化しないと予測します。重要種についても、周辺に類似環境が存在することから、生息状況は変化しないと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響が回避されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・施工時における工事用道路や施工ヤードを候補地内において確保するとともに、本事業による改変面積が可能な限り小さくなるよう配慮します。
- ・樹木を植栽する場合には、候補地の立地条件を考慮し、可能な限り候補地周辺に生育する樹木やその実生を用い、地域の生物多様性の保全に配慮する。なお、地域の植生に影響を及ぼすような侵略的外来種（国内外来種を含む）は用いないこととします。
- ・計画施設からのプラント排水及び生活排水は、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧します。

陸水生物

調査結果

候補地内及び周辺の水路と又八沼、はきだし沼で調査した結果は下表のとおりで、そのうち 13 種が重要種に該当しました。

分 類	確認種数	重要種数
魚 類	18	7
底生生物	62	6
合 計	80	13

予測・評価結果

施工時及び供用時：工事の実施及び焼却施設の稼働による影響

陸水生物については、下記の環境保全措置を講じることにより生息環境は変化しないと予測します。また、重要種についても同様の環境保全措置を講じること、生息状況の変化は小さいと予測します。以上から環境影響ができる限り回避、低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・ 工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制します。
- ・ 急激な出水や濁水及び土砂等の流出が生じないように濁水等を一時的に貯留する仮設沈砂池を設置します。
- ・ 工事中に発生する濁水は必要に応じて濁水処理設備で処理し、河川放流可能な水質とした上で河川放流します。
- ・ 沈砂池からの放流時に濁度及び水素イオン濃度（pH）を測定し、問題ないことを確認します。
- ・ 堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去します。
- ・ 台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート掛け、土嚢による養生等の対策を講じます。
- ・ 計画施設からのプラント排水及び生活排水は、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧します。
- ・ 生息場所が改変されると予測された魚類であるナマズについては、改変前に現地確認を行い、本種が確認された場合には改変区域外の生息適地へ移設を実施して個体の保護を図るものとします。

生態系

調査結果

植物、動物陸水生物の調査結果から、地域の生態系を整理し、注目種等を選定した結果は下表のとおりです。

区分		該当する種	注目種等 (予測・評価の対象とする種)
上位性	生態系の上位にいと 考えられる種	サシバ、カワセミ、アオダイショウ など	サシバ
典型性	この地域に典型的な種	ギンブナ、メダカ、モツゴ、ドジョウ、 トウキョウダルマガエルなど	水田雑草群落、用水路・沼
特殊性	特殊な生態を有する種	なし	選定しない

予測・評価結果

施工時及び供用時：工事の実施及び焼却施設の存在・稼働による影響

＜上位性種：サシバ＞

サシバの行動圏面積は 27～280ha 程度であり、候補地の面積は約 3ha と小さいことから、サシバの餌生物の生息環境やサシバの採餌場所は変化しないと予測します。

＜典型性種＞

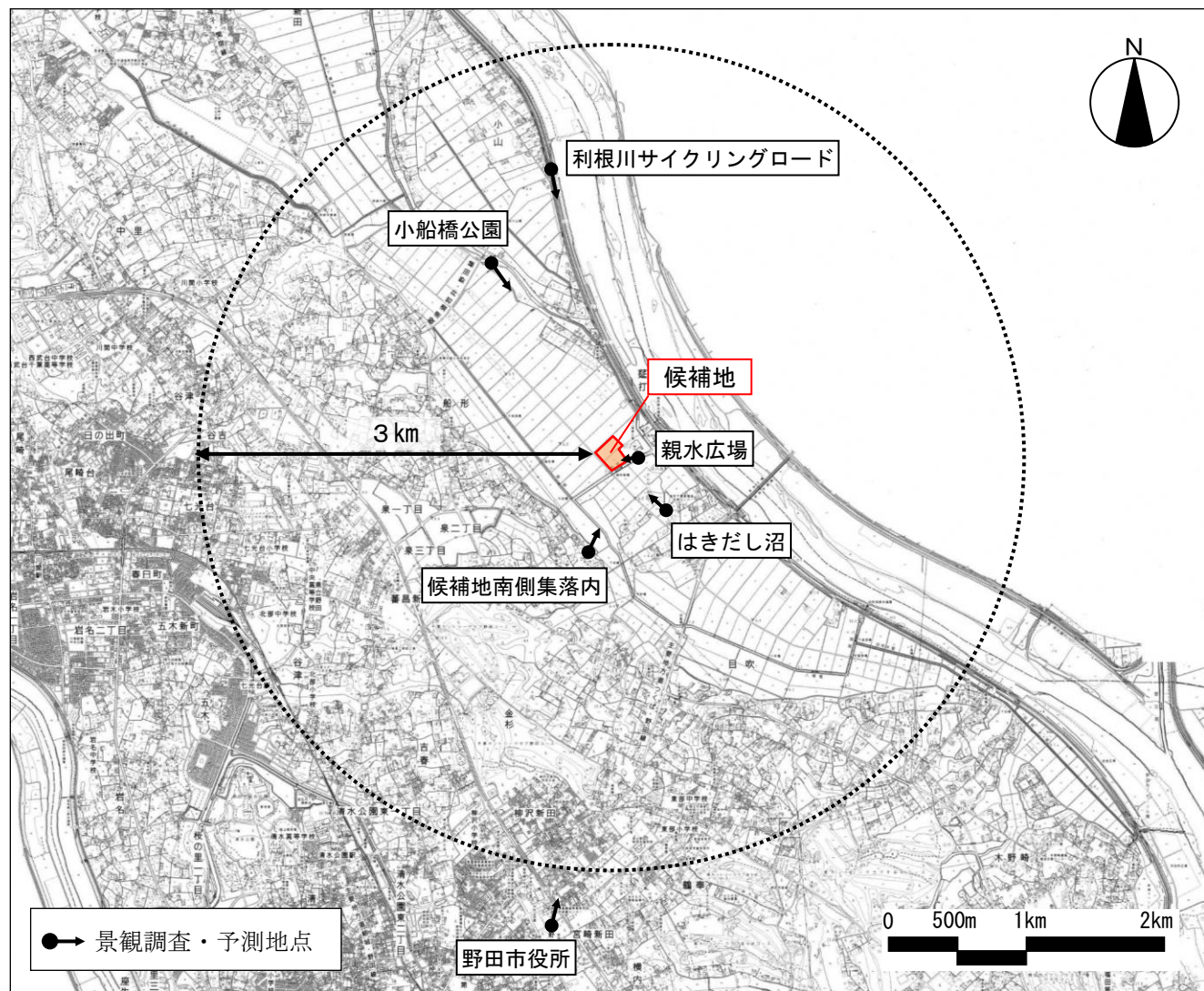
水田雑草群落及び用水路の減少は小さく、沼は改変されないことから、そこに生息する生物の生息環境への影響はなく、また移動経路は分断されないと予測します。

また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・ 工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制します。
- ・ 施工時における工事用道路や施工ヤードを候補地内において確保するとともに、本事業による改変面積が可能な限り小さくなるよう配慮します。
- ・ 急激な出水や濁水及び土砂等の流出が生じないように濁水等を一時的に貯留する仮設沈砂池を設置します。
- ・ 工事中に発生する濁水は必要に応じて濁水処理設備で処理し、河川放流可能な水質とした上で河川放流します。
- ・ 沈砂池からの放流時に濁度及び水素イオン濃度（pH）を測定し、問題ないことを確認します。
- ・ 堆砂容量を確保するために、必要に応じて沈砂池の堆砂を除去します。
- ・ 台風、集中豪雨等が予想される場合には、必要に応じて貯留量を一時的に確保するための仮側溝や仮沈砂池の設置、造成面や法面へのシート掛け、土嚢による養生等の対策を講じます。
- ・ 計画施設からのプラント排水及び生活排水は、排水処理を行った後に場内で再利用する無放流方式とし、ごみピット汚水は排水処理を行った後、炉内に噴霧します。

景 観



	現 況（調査結果）	供用時（予測結果）
親水広場		
はきだし沼		

	現 況	供用時
候補地南側集落内		
小船橋公園		
利根川サイクリングロード		
野田市役所		

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在による影響

供用後の景観は写真（供用時（予測結果）欄）のように予測します。また。下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・施設の詳細な計画にあたっては、建屋の大きさや高さをできるだけ小さく抑えるように配慮します。
- ・周辺地域との調和を図るよう、建築物の形状、デザイン等について検討します。
- ・建築物の色彩は、アースカラーを基調とし、外装材は反射率の低いものとします。

人と自然との触れ合いの活動の場

予測・評価結果

施工時及び供用時：工事の実施及び焼却施設の存在等による影響

候補地周辺の主要な人の自然との触れ合いの活動の場としては、候補地の東側に位置する八間堀、又八沼、はきだし沼及び利根川サイクリングロードがあります。施工時及び供用時に、下記の環境保全措置を講じることにより、人と自然との触れ合いの活動の場の利便性及び快適性の変化に及ぼす影響は小さいと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

[施工時]

- ・建設機械の稼働による粉じん、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を講じます。
- ・工事工程等を十分検討し、工事関係車両の走行が平準化するように努めます。

[供用時]

- ・周辺地域との調和を図るよう、建築物の形状、デザイン等について検討します。
- ・施設の稼働による大気質、騒音、振動等の影響を低減するため、各種環境保全措置を実施します。
- ・候補地側に道路を拡幅します。

廃棄物・残土

廃棄物

予測・評価結果

施工時：工事の実施による影響

施工時に発生する廃棄物は、期間全体で右表のとおりであり、分別排出を徹底し、できる限り再資源化することから影響は小さいと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

種 類	発生量	有効利用量	処分量
建設廃棄物	197 t	88 t	109 t
建設汚泥	5,000m ³	5,000m ³	0m ³

【環境保全措置】

- ・廃棄物の排出量を抑制するため、廃棄物の分別排出を徹底し、金属くずについては有効利用します。
- ・特定建設資材廃棄物については、種類ごとの分別排出を徹底し、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により産業廃棄物の収集運搬業や処分業の許可を受けた業者に委託し、再資源化施設に搬出して処理を行います。
- ・再資源化等が困難な廃棄物を最終処分する場合は、安定型最終処分場で処分すべき品目及び管理型最終処分場で処分すべき品目を分別して適正に処理します。
- ・特定建設資材以外の廃棄物についても、再資源化が可能なものについては、できる限り分別を実施して再資源化を行います。

供用時：焼却施設の稼働による影響

供用時に発生する廃棄物は、1日あたりで右表のとおりであり、最終処分場に埋立処分する計画であり影響は小さいと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・飛灰は飛灰処理設備において、飛灰中に含まれる重金属等が溶出しないように安定化处理します。

単位：t/日

種 類	発生量	有効利用量	処分量
焼却灰	5	0	5
焼却飛灰	2	0	2
合 計	7	0	7

残 土

予測・評価結果

施工時：工事の実施による影響

造成工事にあたって、発生土は盛土や埋戻しなどにより、できる限り再利用する計画とし、残土の発生を抑制することで、発生する土量は下表のとおりと予測し、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

分 類	土 量
掘削土量 (発生土)	8,000m ³
盛土・埋戻量	2,000m ³
搬出量 (残土)	6,000m ³

【環境保全措置】

- ・造成工事にあたって、発生土は盛土や埋戻しなどにより、できる限り再利用する計画とし、残土の発生を抑制します。

温室効果ガス等

予測・評価結果

供用時：焼却施設の稼働による影響

温室効果ガスの二酸化炭素換算の排出量及び削減量は下表のとおりで、焼却施設の稼働による二酸化炭素換算排出量は、3,144 t-CO₂/年と予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り低減されていると評価します。

項 目	排出量 (t-CO ₂ /年)
廃棄物焼却	418
プラスチック焼却	3,632
灯油使用	52
電力使用	2,823
合 計	6,925

項 目	削減量 (t-CO ₂ /年)
発 電	3,781

※排出量－削減量＝6,925－3,781
＝3,144

【環境保全措置】

- ・ごみの処理に伴い発生する熱エネルギーを、発電に活用します。
- ・廃熱は、発電のほか場内の給湯等にも利用し、燃料使用による温室効果ガスの発生を抑制します。
- ・焼却施設の設備機器、管理棟の照明や空調設備は省エネルギー型の採用に努めます。

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在及び稼働による影響

＜自然災害時＞

候補地及び周辺での自然災害として、地震及び利根川からの浸水等が考えられます。これらに対しては、下記の環境保全措置を講じることにより、安全性は確保されると予測し、環境影響が回避されていると評価します。

【環境保全措置】

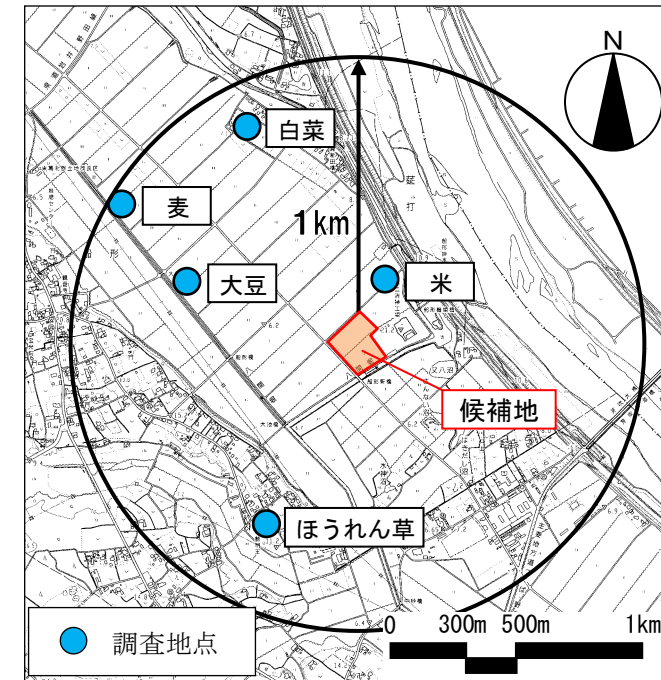
- ・新清掃工場の建築物や工作物、設備機器等の耐震構造は、「官庁施設の総合耐震計画基準」、「火力発電所の耐震設計規定」、「建築基準法」等を準用して設計し、当該施設に求められるよりも高い耐震安全性を確保します。
- ・地震感知器を設置し、大型地震が発生した際は自動的に助燃バーナやアンモニア等の薬品類の供給装置や炉の燃焼装置等を停止し、機器の損傷による二次災害を防止する自動停止システムを導入します。
- ・候補地は、現在は水田であり周辺より土地が低くなっているため、1.5m程度盛土し、主要施設を配置します。
- ・ごみピットへの浸水を防ぐため、プラットホームを2階に設置するなど、ごみ投入口などごみピットの開口部の適切な高さを確保します。
- ・建物の開口部に防水扉を設置し、電気設備・機器、薬品類等は上層階に設置するなどの浸水対策を行います。
- ・災害時において、電気が不通となった場合に備え、必要な容量を持つ非常用発電機を設けます。

＜施設運転非常時＞

施設の非定常時として、設備等の故障時、異常時や停電、火災発生時等が考えられます。これらに対しては、下記の環境保全措置を講じること、安全性は確保されると予測し、環境影響が回避されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・ごみの供給を含め、災害発生時に各設備を緊急かつ安全に停止する、緊急停止システムを導入します。
- ・火災に対応するため、消防署の指示・協議により、消防の用に供する設備、消火活動上必要な設備、防火水槽、消防用水及び自動放水装置などより構成される消防設備を整備します。
- ・災害時において、電気が不通となった場合に備え、必要な容量を持つ非常用発電機を設けます。
- ・非常時の役割分担や連絡体制を構築します。
- ・消火訓練や非常時連絡訓練などを実施して職員の防災意識の向上を図ります。



調査時期

ほうれん草：H29. 3. 30
 麦：H29. 5. 31
 米：H29. 9. 4
 白菜：H29. 10. 18
 大豆：H29. 11. 16

調査結果

いずれの作物についても、作物中、当該田畑の土壌ともに鉛、水銀、ダイオキシン類の含有量は小さな値でした。

予測・評価結果

供用時：焼却施設の存在及び稼働による影響

＜施設の存在による光害、日照阻害＞

光害については、候補地周辺は現況では稲作への影響は生じない明るさであり、下記の環境保全措置を講じることにより、候補地周辺の明るさは現状とほとんど変わらず、農作物への影響はないと予測します。

日照阻害については、秋分日において、本事業の計画建物による影は2時間以上隣接する水田に落ちないことから、農作物への影響はないと予測します。

以上から環境影響が回避されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・夜間は窓から明かりが漏れないようブラインドをおろします。
- ・外灯等は遮光板の設置等により周囲に光が漏れないようにします。
- ・候補地に隣接する水田への日影の影響を考慮して、工場棟及び煙突を北寄りに配置します。

＜煙突排出ガスによる影響＞

焼却施設の稼働が30年と仮定した場合の土壌中のダイオキシン類濃度は、1.501～14.001pg-TEQ/gとなり、環境基準値を下回るとともに、本事業による付加は0.1%未満であると考えられ、農作物への影響はないと予測します。また、下記の環境保全措置を講じることから、環境影響ができる限り回避、低減されていると評価します。

【環境保全措置】

- ・煙突排出ガスによる土壌への影響を低減するための各種環境保全措置を実施します。